

## 令和 7 年度司文庫基金運営委員会 会議要録

■開催日時 令和 7 年 11 月 14 日（金） 午後 3 時～午後 4 時

■開催場所 中央図書館 3 階 第 2 ・ 3 会議室

### ■出席委員（5 名）

伊丹美樹委員、金田文子委員、高須博久委員、秦 正子委員、山本享子委員

### ■事務局（8 名）

（美術博物館）高橋副館長

（図 書 館）坂口館長、加藤補佐、田中補佐、遠藤専門員

永井主査、岡村主査、中野

### ■議事概要

1. 開会

2. 館長あいさつ

3. 議題

（1） 委員長、副委員長の選出について

（2） 令和 6 年度事業報告について

（3） 令和 7 年度事業について

（4） その他

■発言要旨

(事務局)

正副委員長が決まるまで、事務局が議事を進めます。

〈図書館長あいさつ〉

〈委員及び職員各自自己紹介〉

(事務局)

豊橋市司文庫基金運営委員会要綱第6条第1項(委員の互選による委員長及び副委員長を置く)に基づき、正副委員長の選出をお願いしたい。

(委員)

委員長に金田委員を、副委員長に高須委員を推薦する。

〈全員異議なし〉

(事務局)

令和7年度豊橋市司文庫基金運営委員会の委員長を金田文子委員に、副委員長を高須博久委員に決定した。議題(2)以降の進行は、委員長にお願いする。

(委員長)

議題(2)の「令和6年度事業報告」と司文庫の経緯について、事務局に説明をお願いする。

〈事務局が、資料に沿って説明〉

(委員長)

質問はございますか。 質問なし。

次に議題(3)の「令和7年度事業」について説明をお願いする。

〈事務局が、資料に沿って説明〉

(委員長)

質問はございますか。 質問なし。

(委員長)

引き続き、「令和7年度事業」の司文庫展の説明をお願いする。

〈事務局が、資料に沿って説明〉

(委員長)

質問はございますか。質問なし。

全体を通しての質問、意見や感想などございますか。

(委員)

図書館に近い学校では学校貸出を利用しやすいが、距離がある学校では難しい。さらに、学校貸出や司文庫について知らない先生方も多く、周知していくことが課題。

(委員)

司文庫には、多くの洋書があり、子どもたちが英語に触れる良いきっかけとなる。積極的に、利用が広がるよう努めてほしい。

(委員)

英語絵本の読み聞かせの現場では、英語が分からぬ子どもでも楽しめるよう「絵本は勉強じゃないよ、遊ぼう」という姿勢を大切にしている。「ゆびのうた」などで興味を引き、『Don't Push the Button!』のように体を使う絵本を読むことで、英語が分からぬ子もみんなの様子を見ながら、自然に体で覚えていく。このように読み聞かせを行っている。

(委員)

学校貸出資料には「外国籍児童へ絵本でサポート」とあるが、特に日常会話を学ぶ絵本の必要性を感じる。外国籍の子どもたちは「これがほしい」「あれが食べたい」といった基本的な表現を日本語でどう言えばよいか切実に求めている。日常会話をサポートする辞典的な絵本が身近にあることが重要。

(委員)

豊橋には、現在80ヶ国の外国人住民が暮らしているとのことだが、外国籍の割合と蔵書の言語の割合は関係があるか？

(事務局)

豊橋市ではブラジルやフィリピン出身の住民が多く、学校関係者からも、ポルトガル語

やタガログ語、フィリピノ語などの絵本の要望が寄せられている。そのため、司文庫では英語以外にもこれらの言語を重点的に収集している。

(委員)

子どもたちが知っている洋書の絵本を使い、日本語がまだ十分でない外国籍の子が「英語の先生」となる機会を設けることが大切。どうしても、外国籍児童はサポートされる対象に位置づけられるが、逆に教える立場を経験することで、子ども同士の対等な関係を築ける。

(委員)

豊橋市に80ヶ国の人々が住んでいるので、世界地図で、どこから豊橋に来ているのかどんな言語を話すのかまた、その言語の司文庫の蔵書が何かをひとめで分かるようなものがあるといい。子どもたちも、「隣の子はここから来ている」と理解でき、世界の広がりを実感できる。

(事務局)

司文庫展の中で、地図などを活用することを考えていきます。

(委員長)

以上で、司文庫基金運営委員会を終わります。ありがとうございました。